

平成20年度狭山市野球連盟審判講習会

平成20年度も本日の「審判講習会」を皮切りにいよいよスタートです。

本日は「公認野球規則」及び「大会特別規則、申し合わせ事項等」に従い、講義と実技の実践を行います。参加者それぞれが改めて審判の“基本”を習得し、適切な大会運営とゲームの進行にご協力をお願いします。

1. 2007年度野球規則改正(主なもの)

- (1) ロージンバックの位置[3・01(f)]
…試合開始前投手板の後方の位置を確認する
- (2) 打者走者のスリーフットレーン内の位置[6・05(k)【原注】]
…打者走者は両足をレーン内若しくはレーンのライン上に置くこと
- (3) 第三ストライクを宣告された打者がアウトになる時期[7・04(c)【注】]
…宣告されたが、まだアウトになっていない打者が気付かず1塁に向かおうしない場合、その打者がホームプレートを囲む白線を出たとき
- (4) 反則打球[6・06(c)]
…打者が足(両足、片足不問)をバッターボックス外へ踏み出して、地面についてからバットに投球を当てた場合打者をアウトとする。ランナーがいた場合、タイムを宣言し走者を投球当時占有していた塁に戻す。ただし、スクイズプレーが行われようとするとき投手がプレートを外し送球した場合、打者の反則行為に対し三塁走者をアウトとする。バッターはアウトにならない。

2. 審判員のための心得

- (ア) 公認野球規則(規則書)と競技者必携に精通すること
- (イ) 審判員の連帯責任
一人の審判員の失敗は当該試合を務める全審判員の共同責任である。常に連携動作を意識し、万が一他の審判員が持ち場にいないければ互いに助け合い必ずその穴を埋めること
- (ウ) ゲームのスピードアップに努めること
判定に不審を抱かせたりトラブルが多いとゲームが長引いてしまうので注意が必要。またスピード化に向け、プレーヤへの言葉掛けや攻守交替時の駆足を励行することでゲームに活気が生まれ、スピード化が図れる
- (エ) 勇敢で公平であること
瞬時な出来事に対し即座に判定を下さなければならない審判員は、常に見たままを的確に判定するだけ。邪念を持たず常に公平な立場で臨むこと
- (オ) 判定の心得
 - ① 常にボールから目を離さない
 - ② 選手の邪魔にならない位置取りをし、プレーに対し最も的確な角度と距離をとること
 - ③ 走りながらの判定は厳禁。判定前にセットポジションを取ってプレーに注視すること判定はプレーが完了するまで待つ。特に接触プレーは完了するのを見極める
 - ④ 万が一判定を一つ失敗しても、次の判定は正確に行うこと。失敗を繰り返さないことが大切。埋め合わせの判定は厳禁。
 - ⑤ 例えば、他の審判員が「タイム」を宣告した場合は同調すること。ただし、「ボーク」の場合、プレーのなりゆきを見極めた後に同調することもある
 - ⑥ トラブルが起きた場合、まず抗議者の資格を確認すること。そして「必要なことだけを聞き、必要なことだけ答える」これがトラブル解決の秘訣である



規定(9・02)により持ち場を離れたとき、「試合の進行の妨げ」を理由に退場させることができる。抗議への対処はチームワーク(全審判員)で対処することが大事

3. 球審の任務

(ア) 基本的事項(主な着眼点)

① 位置と姿勢

- ・ ホームプレートを中心として捕手の直後・楽な姿勢で一球ごとに構えなおす
- ・ 目の高さはストライクゾーンの上限あたりに置く・右足をやや後方に置く(右投げ捕手のとき)

② 判定について

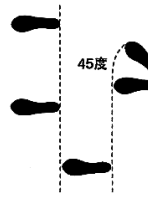
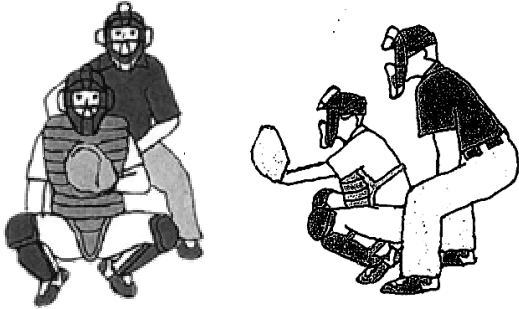
- ・ ストライクゾーンの確実な把握
- ・ 予想や埋め合わせは禁物

③ ジェスチャーとコール

- ・ 節度を持って明瞭に
- ・ コールのタイミングは早すぎないこと
- ・ ボールカウントをコールする

※ スロットスタンス

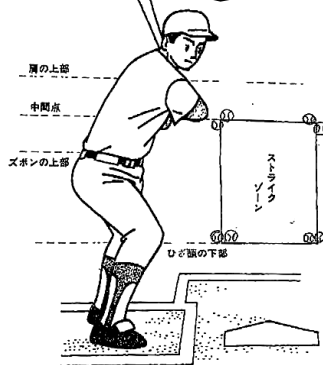
何かと何かの間の意(バッターとキャッチャー)
 スロット足を先に決め、後ろ足は45度まで開く。肩は投手板に正対し、地面と平行。あごも地面と平行にし、捕手の頭上部の高さに合わせる。
 両足のスタンスが一番楽な位置がよい。腕は足の内側に入れ手は自然に握る



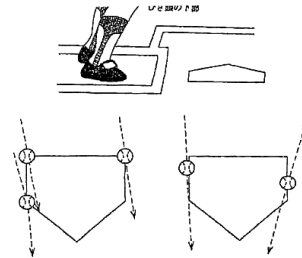
動作	視点	注意点
1.オン・ザ・ラバー	プレート	足位置
2.ゲット・セット	モーション・リリース	構え
3.コール	ミット(音)	トラッキング
4.リラックス		

※ストライクゾーン

打者の肩の上部とユニホームのズボンの上部との中間点に引いた水平のラインを上限とし、ひざ頭の下部のラインを下限とする本塁上の空間をいう。このストライクゾーンは打者が投球を打つための姿勢で決定される

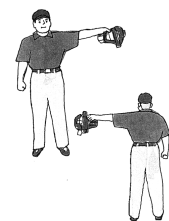
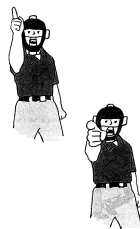


いずれもストライク



④ その他のジェスチャー

- ・ フェア、ファール
- ・ アウト、セーフ
- ・ ボーク
- ・ タイム



(イ) 一般的事項(主な着眼点)

プレイ

タイム

フェア(ノーボイス)

① 試合の準備

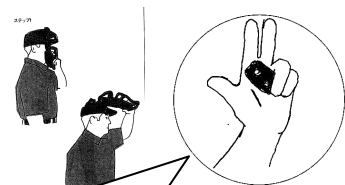
- ・ 早めに会場に集合し、グラウンドの点検を行う
- ・ 塁審等とグラウンドルールなど打合する

② 装具の取り扱い

- ・ マスクの取り扱い(着脱は左手)
- ・ インジケーターを使用する(左手)
- ・ ホウキでホームプレートを拭く

③ サインの見方

- ・ 投手が投手板に正しくついているか確認する



投球判定以外は、全てマスクを外す。まずは外すことが大事

(ウ) 投球動作

- ① ワインドアップポジション、セットポジション
 - ・ 投手板と両足の置き方(軸足と自由な足の制限)・送球の制限
 - ・ ストレッチについて・動作の制止(許されているのは首から上だけ)
- ② 反則投球、ボーク
 - ・ 投球の中断・一塁への偽投・自由な足の踏み出し・走者のいない塁への送球、送球のまね・反則投球・不必要な遅延行為・ボールをもたない行為(隠し球)・投手板上での落球・セットポジションで静止しない

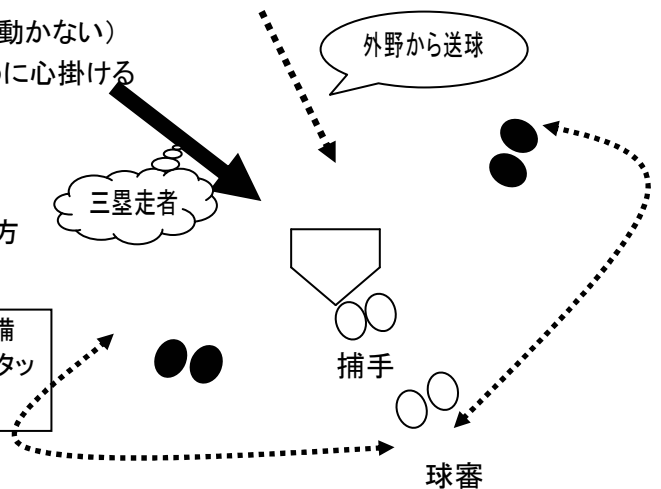
(エ) 判定の基本

- ① 判定の範囲
 - ・ 一塁、三塁のベース前までは球審。ファールフライは別
- ② フェア、ファールのジェスチャア
 - ・ ライン付近のゼスチュアは大きく、明解に。フェアはノーボイス
 - ・ 打球については、ライン際の内野ゴロ、フライ、ライナーは前進してみる
- ③ キャッチャーフライの追い方
 - ・ まずは捕手の動きを見る(捕手より先に動かない)
 - ・ 判定はできるだけ捕手の横から見るように心掛ける

(オ) 本塁周辺のプレイ

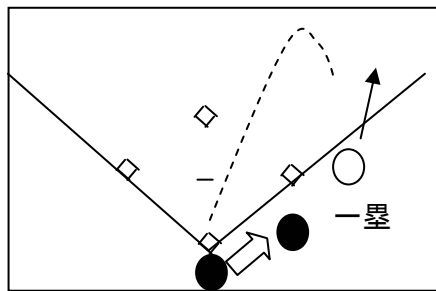
- ① フォースプレイとタッグプレイ
 - ・ 角度と距離に注意する
 - ・ 外野からの送球に対応する位置の取り方
本塁上のタッグプレー

自分が送球を受けるように捕手の後方に立ち準備
捕手の捕球状況に合わせ、左右に身体を振ってタッグと触塁を確認する



- ② 塁審との連携(主なもの)

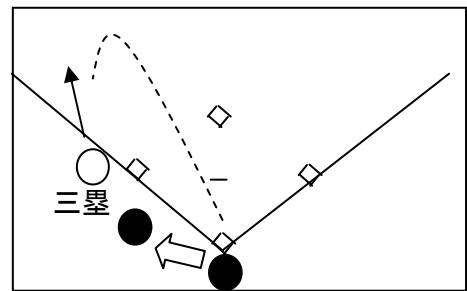
右中間の打球



球審

一塁塁審が追うため打者走者の触塁を見る

左中間の打球



球審

三塁塁審が追うため打者走者の触塁を見る。また、三塁塁審が追うため三塁走者の離塁(タッチアップ)を見る

- ③ 特殊なプレー(球審、塁審とも)

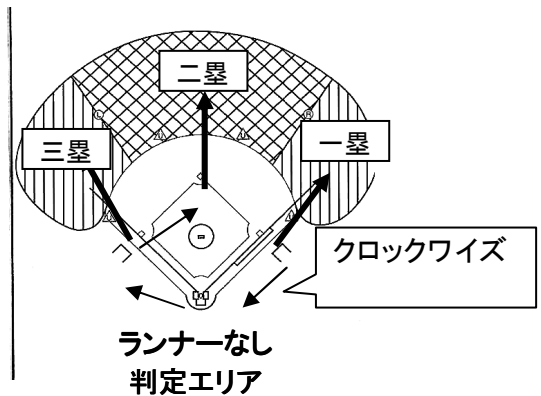
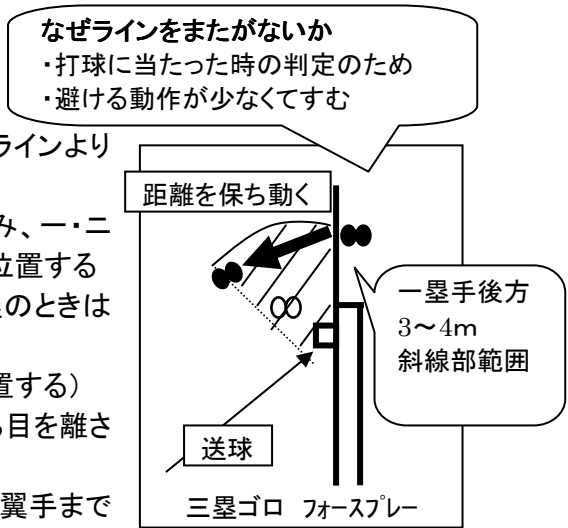
- ・ **ホームスチール**: 先ず「ストライク・ボール」をコール。次に走者へのタッグ等を確認し判定
- ・ **ボーク、ザッツ・ア・ボーク**: 原則、直ちに「ボーク、ザッツ・ア・ボーク」とはっきりコールする
- ・ **タイム**: 即座に「タイム」と大きくはっきり宣告。四球の場合、打者走者の1塁触塁まで未宣告
- ・ **インターフェア**: 先ず「インターフェア」とコールしジェスチャアする。必要に応じ改めて動作する
- ・ **送球動作の妨害**: 捕手が走者を刺そうとして送球しようとしたときの妨害。打者⇒打者又は走者が「アウト」。球審⇒走者は戻る
- ・ **ランダンプレー(挟撃)**: 深追いしない。タッグのとき近づく。ラインアウトに気をとられタッグの動作を見落とさないように(ノータッグに注意)
- ・ **オブストラクション(走塁妨害)**: a 項⇒ボールデット。b 項⇒ボールインプレー

- ・ **得点の確認**: 第3アウトがタッグアウトの場合
- ・ **故意落球**: 故意か見極めが重要。「故意落球」に続きと「バッター・アウト」、「タイム」とコール
- ・ **インフィールドフライ**: 強風時は早いコールに注意。ライン際では「イフ・フェア」を加える

4. 塁審の任務

(ア) 位置及び姿勢

- ・ 一・三塁の塁審はそれぞれベース後方からラインよりのファール地域に位置する
- ・ 二塁塁審は無走者及び走者三塁の場合のみ、一・二塁の延長線上または一・三塁の延長線上に位置する
- ・ 走者が一塁、二塁、一・三塁、二・三塁、満塁のときは内野内に入る
(内野手が前進守備をした場合は外側に位置する)
- ・ 自然体で立ち、1球ごとに構える。ボールから目を離さない
- ・ 二塁塁審は外側に位置したとき、左翼手、右翼手までの間の外野への打球に対し判定を行う
- ・ 二塁塁審は上記のように内野内に入ったときは外野への打球は追わない
- ・ 上記の場合、一・三塁塁審がセンターをさかいにして外野への打球に対し判定を行う
- ・ 二塁塁審が外野への打球を追った場合は、三塁塁審は速やかに二塁のカバーに入り、判定を行う
- ・ 球審が3塁のカバーを行った場合は、一塁塁審が速やかに本塁に移動し判定を行う
- ・ 塁審が打球を追った場合には、球審及び他の塁審はその状況により移動する



(イ) 判定

- ・ 「フェア」「ファールボール」の判定
「フェア」の場合内野地域に向かった両手(または片手)を水平に広げて差し出す。ゼスチャーのみでコールはしない
「ファールボール」の場合、両手を開いて上にあげるゼスチャーで示し、「ファールボール」とコールする
- ・ 内野ゴロの判定は先ずその送球の予想されるコースに対し直角の位置をとる。送球を目で追い、送球と打者走者の両方が視界に入るように距離をとる
- ・ 「フォースプレー」は走者の触塁と野手の捕球が見える位置をとる
- ・ 「アウト」の判定の直後の野手の落球に注意すること
- ・ 判定の直後に目をそらせたり、自信のないそぶりは厳禁。自信と気概をもって臨む

